

令和4年度 第1回 学校関係者評価委員による主な意見に対する手立て及びその取り組み状況

岐阜県立下呂看護専門学校

評価項目	第1回 学校関係者評価による主な意見	意見に対する手立て	第2回 学校評価委員への報告<取り組み状況>
I 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な経営がされている。</li> <li>・教職員の意見を反映させる形で組織目標の設定がされていることで、目標の理解、共有が十分されており、全員で課題解決に取り組んでいる。組織のまとまりは、教育の方向性を担保するものであり、質向上に期待したい。</li> <li>・全体や係・委員会ごとなどに細かく目標設定がされていることにより、目指す姿が想像しやすくなっていると感じる。</li> <li>・令和元年から4年間の中期目標・計画で、具体的な数値目標を年度毎に計画し、それに向けて努力している事は評価できる。</li> <li>・校長を中心にうまく経営されていると思った。学生の姿からもそれを感じた。さらに小規模校の良さを活かした積極的な取り組みができるとよい。</li> <li>・風通しの良い環境だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織目標をはじめ各係・委員会目標、中期目標について、具体的な評価指標を定め、職員間で共有し課題解決に取り組んでいる。引き続き、教職員一丸となり、小規模校ならではの風通しの良さを活かし、活気のある組織運営を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期は組織目標・年間運営計画に基づき学校運営が行えた。</li> <li>・今年度は4つの組織目標（1. 新旧カリキュラムの適切な運用、2. 職員間の学びあいによる教育実践能力の向上、3. 在校生・受験生・卒業生のニーズに合わせた支援の充実、4. 業務マネジメントとワークライフバランスの推進）を掲げ取り組んでいる。中間自己評価の結果、ほとんどの課題に取り組み、成果が認められている。その中で、組織目標2に関連した「伝達講習の実施」、組織目標3に関連した「各種アンケート結果のタイムリーな共有・活用」が下半期の課題として明確になった。下半期も組織目標の達成に向け、教職員間の意見交換を行い、力を合わせて課題解決の取組みを継続する。</li> </ul>
II 学科運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題となった新カリキュラムと旧カリキュラムの平行運用については、学生への混乱等を招くことがないように予め確認・整理をしながら取り組んでほしい。</li> <li>・学生への時間割発表の早期掲示はぜひ務めてほしい。</li> <li>・今までずっと議題として挙がっていた「時間割の早期作成」が現在できているとのこと。今後の維持に期待する。</li> <li>・卒業生や就職先へのアンケート結果が興味深かった。両者の評価結果から、基本的技術や知識を上手に実践につなげる力が必要だと思った。</li> <li>・良くできていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新・旧カリキュラムの運用については、今のところ順調である。今後も担任・副担任、教務主任による複数チェックを確実にを行い、適正に運用する。</li> <li>・今年度、学生への時間割発表（1ヶ月前）を目標に取り組み、達成できている。その結果、効果的な授業運営はもちろん、講師料等の確実な事務手続きにつながっている。今後も取り組みを継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日に第1回科目評価会議を実施し、目標の到達および、授業内容、授業進度等について評価を行い、次年度に向けた課題を明らかにすることができた。科目評価などを次年度の教育課程の進捗計画に反映した。今後は第2回科目評価会議を12月22日（木）、第3回科目会議を3月に計画予定である。</li> <li>・時間割については毎月1ヶ月前には学生に配布することができている。試験対策や事前課題への計画的な取り組みにつながっている。一部再履修を受ける学生も、見直しをもって、履修計画を実行することができている。</li> </ul>
III 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生確保については、情報の取得方法も変化してきているため、ICTの活用を進められるとよい。</li> <li>・定員の確保には至っていないが、入学生確保にはよく努力をしている。引き続き取り組んでほしい。</li> <li>・引き続き、地元学生の入学増加を願う。</li> <li>・国家試験に全員合格できた事は、試験対策の効果があったと思われ、良かった。</li> <li>・国試対策について、補習や低正答率問題についての検討など、こんなに手厚く支援してきた結果が全員合格につながっているのだと感じた。</li> <li>・ホームページの更新回数からも、先生方の努力がとても伝わる。また内容も、学校のことだけでなく「下呂」という地の魅力も伝えようとしているのが良いと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初からホームページでの情報発信、進学ガイダンス（高校出張、会場式、Web）など、積極的に入学生確保に努めている。また、季節休業中に学校見学会・学校説明会（Web）を計画し、個別対応にも力を入れている。今後は本校の魅力をより効果的に伝えられるよう、学生募集方法の工夫に取り組む予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学会・学校説明会の参加人数は42名である（11月25日現在）。また、10月末日までの段階で業者を介した進学ガイダンスは12件（岐阜圏域2件、中濃圏域3件、東濃圏域3件、飛騨圏域4件）である。外部持ち出し可能なiPadに学校生活のわかるスライドショーを張り付け、外部のガイダンスで使用し、リアル感があり好評である。特別入学試験の受験者の調査結果では進路を決定する際に役だった情報として当校実施の学校説明会や学校見学会と回答した学生が22.9%、進学ガイダンスと回答した学生が17.1%、ホームページと回答した学生が14.3%であったことから入学生の確保には効果的な方法であると考えられる。</li> <li>・卒業対策としては、就職試験後の試験内容調査を行い、翌年の就職試験対策としている。国家試験対策については、今年度も担当制で支援しており、個別の弱点に合わせた指導方法を行っている。</li> <li>・実習でお世話になっている病院の卒業生を招き、1・2年生との語る会を10月下旬に開催した。卒業生が意図的に話題提供をしてくれたことで、学生からは就職試験に向けての心構えや、看護師としての生活について具体的なイメージを持つことができ、就職先選択に向けた動機付けの機会となった。</li> </ul>

評価項目	第1回 学校関係者評価による主な意見	意見に対する手立て	第2回 学校評価委員への報告<取り組み状況>
IV 学生生活への 支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で制約が多く、日々窮屈な生活を強いられている中、球技大会を学内レクリエーション大会へ代替するなど、できることを工夫した取り組みは学生にとって息抜きでもあり、また、充実した学生生活支援の一端として評価できる。</li> <li>・コロナ禍で精神的ストレスを感じている学生が多い中、色々工夫し、支援していることは評価できる。</li> <li>・豊かな人間性を備えるためにも、メンタルヘルス・社会人基礎力への意識の向上などに対して対応があると良いと思う。</li> <li>・就職活動に関わることについては、初めてのことだらけで「何がわからないかわからない」状況だと思う。年間スケジュールの提示や面接マナー、履歴書の書き方等、学生目線での困り事抽出を進路選択調査結果を参考に行って、今後のアドバイスに役立てていけるといえると思う。</li> <li>・学生アンケートを年に2回実施しており、よくわかった。大切なデータであると思った。</li> <li>・卒業生のフォローも引き続きお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、就職試験の時期が早くなっていることから、1～2年次から就職希望調査やインターンシップ参加の呼びかけなどを行っている。また、医療機関から送付される病院案内は学生が閲覧しやすいよう整理し、適時更新している。昨年度は進路選択理由調査の結果を参考に、業者による就職ガイダンスを実施している。今年度も、就職に関する情報発信、個別面談を行い支援する。</li> <li>・昨年度は卒業生交流会（来校またはWeb）を開催したところ、卒業生同士の交流が図れ、参加者からは肯定的な意見が得られた。今年度は参加する卒業生が少しでも増加するよう早期から計画し、効果的な卒業生支援の一助となるよう取り組む予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生に対しては、担任・副担任を中心に就職先の選択相談、過去の就職面談情報提供、提出書類記載後のチェック等、適宜個別相談に応じた。面接練習の申し出があった学生には、会場設営も行い本番さながらの練習を行った。</li> <li>・2年生に対しては、11月下旬に就職支援アンケートを実施予定である。その結果も踏まえた、就職支援業者によるセミナーの開催や、就職支援相談を計画する予定である。</li> <li>・進路・学習・経済面等、複雑な問題や悩みを抱える学生数名に対して繰り返し面談を行った。学生と共に課題を整理し、必要な社会資源の情報提供、保護者への電話連絡や面談による情報共有等を行いながら、学生が安心・納得して今後の生活に臨めるよう支援に努めた。多様な背景を抱える学生が増加している現状を鑑み、現状の支援に関する課題を明確化し、個々に応じた支援に繋がるよう検討していきたい。</li> <li>・卒業生交流会は3月22日（水）に開催予定である。</li> </ul>
V 教職員の 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修参加後の伝達については、効率かつ効果的な方法で実施してほしい。授業評価やカリキュラム検討による全体の質向上と授業参観の実施による個々のスキル向上が期待できる。今後、授業研究の予定も示唆されており、研究的視点が加わることで、一層、教育の質向上が図られることを期待する。</li> <li>・新カリキュラムを編成する中で学びはできている。実習施設への実務研修、授業研究、授業参観と課題は多いと思うが、取り組み頑張ってもらいたい。</li> <li>・学校授業参観日を勧めて、今後も病院と学校間で連携を取っていけたら良いと思う。</li> <li>・Web研修の活用も多く取り入れ、すべての先生が自己研鑽に努めていることはもっと評価して良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織目標に研修後の伝達講習会の確実な実施を掲げている。研修会参加後、毎月の職員会議・教務会議においてワンペーパー形式で実施予定である。</li> <li>・今年度、「互いの承認、教員のやりがい・教育の質向上」を目的に教員育成支援係を新たに設け、授業参観（全員2授業）、授業研究（3テーマ）、教員間支援などに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後、学びをワンペーパーにまとめ、職員会議や教務会において伝達講習会を実施している。10月までに受講した研修について、伝達講習できていないものがあるが、計画的に実施していく予定である。</li> <li>・年度初めに授業参観の計画をたて、全員2授業参観するよう取り組んでいる。10月の段階で、2授業の参観を終えている教員は30%、1授業の参観を終えている教員は80%である。</li> <li>・今年度、授業研究（3テーマ）実施予定であり、現在2テーマについて進行中である。</li> <li>・教員育成支援係が中心となり担当領域のペア制に取り組んでおり、前期の評価を行った。</li> </ul>
VI 管理運営 ・財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に運営されている。</li> <li>・予算執行は適正だと思われる。</li> <li>・過去の事案をもとに、危機管理体制に関する教職員の意識の高まりが感じられる。今後は、各種マニュアルを早急に見直し、実行できるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は日常的に活用するマニュアルに重点を置き、見直しと活用状況把握を行う予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な予算と進行管理が行えた。また、非常時の危機管理体制の整備や災害に備えた訓練が行えた。</li> <li>・課題であるマニュアル類の取り組みとして、上半期はICT推進事業担当者を中心に、ICT機器活用マニュアルの作成ができた。下半期は日常的に最も活用する「教職員の業務マニュアル」について重点的に見直す予定である。</li> </ul>
VII 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備等の老朽化については、計画的に予算化し、修繕に取り組んでいることで、学生・職員にとって安心できる環境提供につながっている。ICTは概ね整備されたため、活用を積極的に進め、今後はその効果が評価できるとよい。</li> <li>・施設の老朽化を計画的に修復されていて、評価できる。特に令和3年度は、校舎・寄宿舎の空調設備を全館制から個別制に変え、経費節減を図った事は良かった。</li> <li>・冷暖房設備ができてよかったが、電車の騒音は気になった。タブレット等の活用による授業は時代の流れと共に変化しており感心した。一般的な情報を得て学習することができてとても良いと思った。</li> <li>・同窓会より寄附させてもらった机やイス、プリンターが学生の学習環境向上に役立っていることを大変うれしく思っている。</li> <li>・学生の希望・声を受け止め、トイレ改修等の計画をすすめている点が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器が整備され、授業、進学ガイダンス、各種会議などで活用する機会が増えている。今後は県立3校合同の活動が計画されている。</li> <li>・ICT機器の活用に関する教員の能力差が課題である。教員のスキルアップと能力の標準化として、マニュアル作成に取り組み、効果的な教育につなげる予定である。</li> <li>・昨年度から、電車の騒音対策としてマイクを使用することで、授業の中断もなくなった。今後もマイクを使用し授業を効果的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はICTを活用した授業の頻度が増えている。特に、グループワークや課題発表、技術演習等、学生が積極的に工夫しながら活用する様子が見られている。</li> <li>・6月・9月に県と県立3校による意見交換会が開催され、各校の運用状況を確認し合い、今後の課題を検討した。</li> <li>・設備面では充電保管庫が整備され、機器の管理がスムーズに行えるようになった。</li> <li>・9月にはICT推進事業担当者による学習会が開かれた。現在、紙面で実施しているアンケートアプリを活用する方法や、学生が手軽に楽しく学習できる小テスト機能やWeb上の学習システムについて学んだ。教員からは今後活用してみたいと前向きな反応が得られている。</li> <li>・上半期はマニュアルが整備できた。下半期はマニュアルを活用しながらマニュアルの評価・修正を行い、より効果的な教育につなげるのが課題である。</li> </ul>

評価項目	第1回 学校関係者評価による主な意見	意見に対する手立て	第2回 学校評価委員への報告<取り組み状況>
VIII 広報 社会貢献 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの見直し等、PRを積極的にすすめ、学生確保につながるとよい。</li> <li>・ホームページをこまめに更新しており、評価できる。</li> <li>・地域と良く連携されていると思う。学生の実感に繋がると良い。</li> <li>・ホームページが適宜更新されていて良かった。地域との関わりは、コロナ禍で自粛されていると思うが、下呂の地域での入職の希望に繋がる一歩になるので大切だと思う。</li> <li>・中学校時代、看護師を進路のひとつとして考える生徒はたくさんいる。ぜひ中学校への出前授業や、進路説明等があるとよい。地元の中学校には下呂市教育委員会から訪問する。</li> <li>・ボランティア活動も看護につながる視点での意義を見つけられると参加者も増えるのではないかと思う。</li> <li>・「まめなかな（地元ケーブルTV）」で下呂看が出るとやはり嬉しく感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に実習施設にボランティア活動の案内・申込方法について紹介している。近年、実習施設等から「是非協力してほしい」「連携を図りたい」といった申し出が増えつつある。また、ボランティア活動の案内後、協力を申し出る学生も多くなっている。意見があるとおり、ボランティア活動は学生にとって看護につながられる機会となることから、今後も取り組みを継続する。</li> <li>・市内教育機関へ出前授業について引き続き案内し、要請があった場合は対象者のニーズと合致するよう内容・方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは学生確保係と総務課を中心に定期的に更新している。また、在校生向けに内容の充実を図ったことで、遠方実習や自宅療養期間中の学生も適宜必要書類の提出ができる等、学生生活支援にも繋がっている。</li> <li>・学生自治会のボランティア委員を中心に、実習施設や地域から依頼のあったイベント（市民公開講座のボランティア、地元CCNへの協力）や作業（地域の清掃作業）への参加を行うことができた。</li> <li>・出前授業については例年同様案内したが、コロナ禍もあり現時点では依頼はない。</li> </ul>
IX 独自項目 寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策による個室化は、時代に即した取り組みでもあり、学生の生活の質の保障としても評価できる。さらには、学生の意識調査結果に対して、慣習にとらわれることなく丁寧な対応を期待したい。</li> <li>・完全個室化となり、良かったと思う。</li> <li>・入寮生アンケートの「寮生活にやや不満・不満」の理由に多い「規則が多い」に関しては、やはり集団で快適に使用する為には、ある程度は仕方ない部分だと考える。まだ続くコロナ禍で、より不自由さが増しているとは思いますが、不満を減らすには入寮生それぞれが考え、自治するしかないのでは。</li> <li>・アンケートでは意見はないようだが、近くにスーパーがなく、交通の便も悪い状況の中、下呂は不便と思われ不満に繋がっていないのか心配。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見があるとおり、学校としても学生自治による寄宿舎運営を目指したいという思いから、各種課題について学生に投げかけ自ら解決するよう促している。しかし、コロナ感染予防対策の継続等の影響もあり、帰省の制限、他室訪問の禁止などの規則を設けざるを得ない現状である。寄宿舎で生活する学生は18歳以上の成人学習者であり、また、生活者を支える看護師の卵であることから、自分達の生活の質改善に向け、学生自らが考え行動できるよう、指導・助言を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生には適宜困ったことはないか声をかけ、対応している。</li> <li>・寮生活での困りごとや規則などについて、検討したいことがあれば声にあげることや各種課題について寮役員会・寮会等を活用しながら学生自ら考え、検討するよう指導・助言している。現状は、学生自ら話し合いの場をつくり検討することが少なく教員が誘導することが多いが、少しずつ主体的な取り組みがみられている。</li> <li>・コロナ対策については、帰省制限の緩和、多用室使用方法の変更等に取り組んでおり、少しずつではあるが、学生のストレス軽減や生活の質改善につながっていると考える。</li> </ul>